

社会学習法のポイント

今回は社会科責任者として、社会の学習ポイントについて論じたいと思います。

社会の授業や自習を見ていて思うことは、成績が良い生徒というのは「正しい勉強のやり方が分かっている」ということです。社会においてセンスや才能を感じる生徒というのはいまありません。逆もまた真なりで、成績が振るわない生徒は、本人は全く意識していないのに、効率のよくない勉強のやり方をしている、ということなのです。

成績が良い生徒の勉強は「出す勉強」が中心であり、伸び悩んでいる生徒は「入れる勉強」一辺倒か、「単なる勉強しているフリ」である、ということなのです。

例えば「うちの娘は、結構時間かけて勉強しているんですけど、社会の成績が伸びなくて……」とお母さんからご相談を受けたとします。当のお嬢さん、確かにコツコツやるタイプ。こういう場合は、まず間違いないこの生徒の社会の勉強は「ノートまとめ」です。

教科書や資料集を読んで、大事だと思ったところをノートにまとめていく。お道具入れみたいな大きなペンケースから、色とりどりのペン



やマーカーを選び、定規を使って綺麗に枠でくくる。中にはイラストを入れたり、教科書の絵を写したり……。

やっている本人はしつかり勉強している、と思いますし、お母さんがご覧になっても「よくやってるな」と感じます。しかし、です……それは「作業」でしかありません。

勉強は「入れる勉強」と「出す勉強」しかないのです。

何度も声に出して読み続ける、これは「入れる勉強」です。単語なり漢字なりを何回も書いて暗記に努める。これも「入れる勉強」です。

答えを隠して、本当に出来るか二度三度と解いてみる。これが「出す勉強」。自分で問題を作つて、その答えを書き、答え合わせをする。これも「出す勉強」です。

つまり、学習内容＝情報を頭にインプットするか、インプットされているはずの情報をアウトプットするかが勉強なのです。ノートまとめは、インプットするための道具を作っているだけですから、「作業」。暗記作業ばかりやっていると、「本当に出来るのか」「ちゃんと覚えたのか」というアウトプットをしない生徒も、結果が思わしくありません。

テストで要求されるのは、情報を出す能力です。情報を「出す勉強」は頭を酷使します。だから苦しい。成績が振るわない生徒は、本人は全く意識していなくても、「楽な勉強」すなわち「頭を使わない勉強」に流れてしまうのです。

教科書を眺めているだけ、出来る問題だけを何度もやる、単なるノートまとめ等々。

「出す勉強」にこそウェイトを置くべきだ、ということ、我々は何度も繰り返し強調していきたく思っています。(瀬野)

理科は嫌いですか？

夏休みも半ばを過ぎ、疲れがでてくる頃です。正直なところ、宿題もやりきれない人もいるのではないのでしょうか。

ところで、学年関係なしに理科が嫌い！という人は少なくはないでしょう。理科なんかんで勉強しなければならぬのか、そして何故理科という教科があるのか、そんなことを考えている人も少なくはないでしょう。しかし、理科だけではありませんが、この教科が発展してきたことよって、今の文明社会があり、様々な便利な道具等によつて快適に暮らすことができるのも事実です。そんな理科というものを少しは勉強しても損にはならないですし、むしろ知識として持つておく必要があると思います。



ではその理科はどのように勉強すればよいのでしょうか。段階はあると思いますが、大きく分けて①基本用語の習得、②基礎知識を用いた問題演習、③応用問題の演習となります。

①については教科書の熟読やマーカーチェックも必要ですが、覚えたことを正確に利用でき

るかを確認する必要があります。つまり一問一答形式の問題を解くことです。創学舎のワークと学校のワーク、ひたすら繰り返すことです。二冊で十分です。ノートだけではなく、ワーク本体にも○×をつけて徹底的に繰り返すことです。

①がある程度できたら、次は②になります。ワークによつて名称は異なりますが、現在の創学舎のワークでいえば、基礎力アップ問題です。これもノート、ワーク本体に○×をつけて徹底的に繰り返すことです。

②も落ち着けばよいよ③です。実力アップや総合問題です。やり方は同じです。ノート、ワーク本体に○×をつけて徹底的に繰り返します。

これらの段階を×が○になるまで繰り返していけば、間違いなく点数は上がります。ただし、字の書き方やノートの作り方をある程度丁寧にしないと、知識の定着は難しくなります。ではどのようにすればよいのでしょうか。

字の書き方については後で見直したとき、きちんと読み取れる字であれば問題はありません。何を書いているのか考えてしまうような字は論外です。ノートは半分折りで一ページ二段で使います。問題と問題の間は一行あけて見やすくします。字の書き方と同じで、後で見直したときに、きちんと読み取れるようにします。字とノートの整理は、同時に頭の中の整理になるのです。

そうはいってもたまに字もノートの使い方

雑で点数の取れる人がいます。しかし、自分自身がどうかを振り返ってください。そのやり方で点数が上がるのか?そう思えば自然と答えは出てくると思います。(岡本)

毎日やること

授業をするための予習をするなかで、私ほとても恥ずかしいのですが、時々次のような気分になることがあります。「あれっ。一学期は計算ばかり教えてきたせいか、図形に対する感覚が鈍っているな。」

これは、久しぶりに入試問題を解いたときにも感じます。入試シーズン真っ只中にスラスラと解けた問題でも、だいぶ時間が経過した今の時期に解くと、手がスラスラ動かないことに気づくのです。

勉強以外でも、皆さんは体験したことがないかもしれません、例えば、自転車に乗る機会が減り、半年くらい乗っていないと、ある日突然乗ったときにも同じような感覚を覚えます。完全に慣れていないと思ってしまうような作業でも、時間が経過するとそれに対する感覚は鈍ってしまうものです。



私は中学からずっと音楽に関する部活やサークルに所属していたのですが、部活の顧問に次のようなことを教わりました。

「たとえプロでも、練習を3日さばれば、腕

が鈍っていることにまず自分が気づく。練習を5日さばれば、同じパートの人がそれに気づく。1週間さばれば、演奏を聴く観客がそれに気づく。」

腕が鈍ること・感覚が鈍ること、これをしてできる限り少なくするには、やはり継続的に練習をして頭や身体に染み込ませ続けることが必要なのでしょう。

皆さんは7月の夏期講習で毎日授業を受けて宿題をすることで、ある分野に対する知識を集中的に得ることができたと思います。それに近いペースを毎日続けていければいいのです。「宿題を塾に来る前に片付けた」とか「テスト範囲のワークを3日で片付けた」という言葉をよく聞きますが、それでは一時的な記憶に終わってしまいます。少しずつでも毎日やる。間違えたところはやり直す、時間が経ったら復習するといったことを繰り返すことが必要です。

人生で何が一番怖いか。最近では、今まで得てきた知識等が失われていってしまうこと一番の恐怖を感じるようになりました。それを防ぐために、今は自分の教える科目を中心に、まんべんなく少しずつでも継続してやっていると書いています。それをするために、学習した内容を手帳などに記入することも大事だと思っています。

人生、毎日勉強だなど思います。勉強に関して皆さんから刺激を受けることも多々あります。私も皆さんにどんどん刺激を与えていきます。共に頑張っていきましょう。(本多)

伸びるはずがない受験生へ!

●夏休みも半ばを過ぎた。受験生のみなさん、勉強の進み具合はどうだろうか。夏休み前のきみの決意は色あせていないか?毎日毎日、「今日もがんばった」と思う充実した日にできているだろうか?ここで改めて自分の状態をチェックしてほしい。

●ところで教師や講師、そして親から「もっとちゃんとやれ」「さぼってるだろ」と言われればみんな頭にくるはずだ。痛い所をつかれて自分を守ろうとする。「少しはやっている」「塾も行って、宿題も出している」その通り。少しはやっているし、塾も休んでないし、宿題も忘れない。でも、そんなことはどうでもよくて、きみ自身がどう思っているかなのだ。頭を冷やしてよく考えるのだ。

●まず自分は全力を10として、發揮しているのはいくらか?3か?5か?もし、3とか4とか5だったら伸びるはずはない。「伸びてほしい」「伸びるかもしれない」と勝手にきみが思っているだけで、そんなのは幻想だ。そんなので伸びたら、全力でやっている人に失礼だぞ。

●次に、少しはやっているキミ。それで伸びると本当に思っている?「伸びないだろう」と本当は分かっているはずだ。その通りだ。せっかく塾に通ったのに、御苦労さん。

●塾に行ってるから伸びると思っっているキミ。

キミは勘違いをしているぞ。塾に行くから伸びるのではない。真剣に授業をうけて、分からない所は考え抜いて、それでも分からなければ質問して、何度もやり直して、やっと伸びるのだ。授業中に眠くなります。いいネ。顔を洗え。疲れています。疲れるのが当たり前。歯をくいしばれ。面倒くさいんです。そう、だったらやめれば。勉強は面倒くさいものなんだよ。



●「ぼくは宿題は出しています」というキミ。とりあえずやっただけ?それでも考え抜いたの?分からない所は調べたの?○×や日付は入れたのかい?そのやり方で伸びると思うかい?自分に聞け。自分が一番よく分かるはずだ。

●何故、こんなことを書くかといえば、キミ達が十分な能力をもっているからだ。その能力を出せば間違いなく伸びるのだ。それなのに自分で選択して、伸びないような過ごし方をする。残念だ。きみ達のために授業料を負担している保護者にも申し訳ない。

●改めて聞く。きみは、全力でやっているのか。せめて10のうち8ぐらいは力を出しているのか?そして、何よりきみは、自分の能力を出せないままいくつもりか?そして、そして、あと20日間をどう過ごすのか? (小林(健))

▼▲継続希望の方へ▲▼

▶退塾や転校等で創学舎を離れた方にも、ご希望があれば創学舎ニュースを無料でお送り致します。
▶在籍していた教室までご連絡ください。